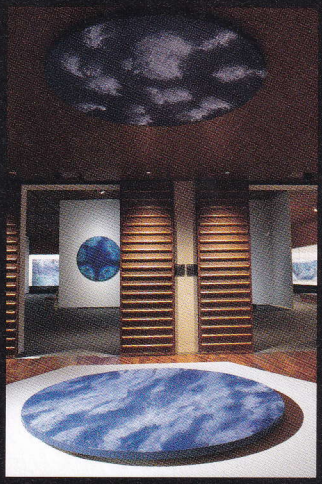
Kinesis, Water Forest

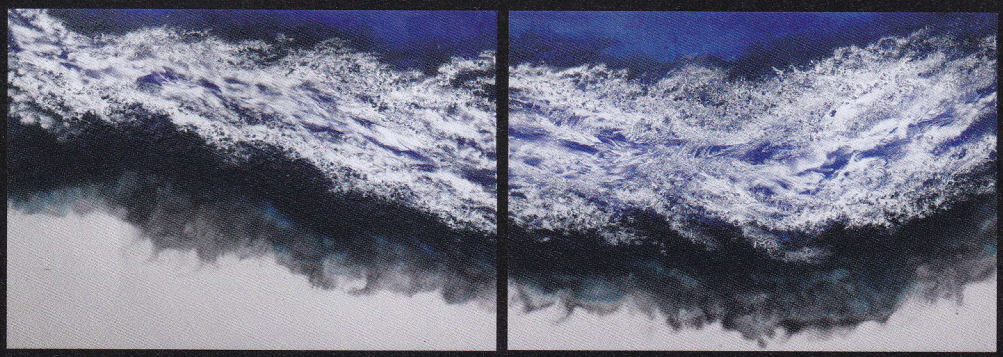
現代日本画を代表する画家の一人である間島秀徳は、1980年代後半より一貫して「水」を主題として作品を発表してきました。日本画の伝統的な素材や技法を礎としながら、水の流れや重力を制作に取り込み、独自の絵画表現を探究しています。● 筆によって形態を描くのではなく、墨や顔料を水の動きに委ねることで生まれる流れや重なりの痕跡は、海や雲、大気、地層などを思わせる多様なイメージを画面に立ち現れさせます。● 本展では、ギリシア語で「運動」「変化」を意味する〈Kinesis（キネシス）〉シリーズを中心に、1980年代後半から90年代にかけて制作された〈Untitled〉〈Water Works〉などの初期作品から最新作まで、大型作品25点を紹介します。約40年にわたり水と向き合いながら歩んできた間島秀徳の創作の軌跡をたどります。



［手前］《Kinesis No.478 (climbers eye)》2011年
［奥］《Kinesis No.479 (divers eye)》2011年
（香染美術（2011年）での展示風景）



［天井］《Water Works No.29》2000年
［台座上］《Kinesis No.215》2004年／個人蔵
（茨城県天心記念五浦美術館（2023年）での展示風景）



《Kinesis No.699 (cosmic flow)》2017年

特別対談｜日時：11月23日（月・祝）
16時30分―18時
出演：天野一夫（美術評論家・美術史家）
×間島秀徳
会場：美術館ホール

特別鼎談｜日時：12月7日（月）
16時30分―18時
出演：小金沢智（キュレーター／
東北芸術工科大学芸術学部
美術科日本画コース准教授）
×中村ケンゴ（美術家）×間島秀徳
会場：美術館ホール

同時開催
助教・助手展2026
武蔵野美術大学助教・助手研究発表

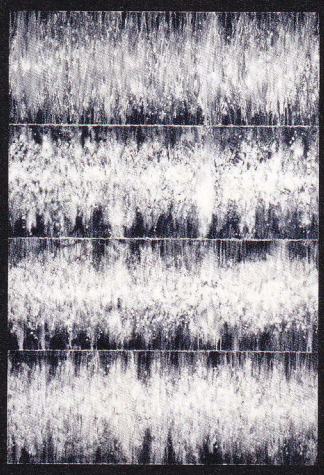
間島秀徳（まじま ひでのり）

1960年茨城県生まれ。84年東京藝術大学美術学部絵画科日本画専攻卒業。86年同大学院美術研究科修士課程修了（稗田一穂に師事）。2000年文化庁在外研修員としてフィラデルフィア（Pennsylvania大学）、ニューヨークに1年間滞在。15–21年信州大学教育学部教授。21年より武蔵野美術大学造形学部日本画学科教授。● 1988年ギャラリーなつか（東京）での初個展を皮切りに、個展を中心に作品を発表。93年「現代絵画の一断面――「日本画」を越えて」（東京都美術館）、97年「今日の日本画 第14回山種美術館賞展」（山種美術館）、98年「チバ・アート・ナウ'97――現代美術というジャンル」（佐倉市立美術館）、99年「VOCA展'99 現代美術の展望――新しい平面の作家たち」（上野の森美術館）、2002年「第1回東山魁夷記念 日経日本画大賞展」（ニューオータニ美術館）、04年「「超」日本画宣言――それは、かつて日本画と呼ばれていた」（練馬区立美術館）、13年「二年後。自然と芸術、そしてレクイエム」（茨城県近代美術館）など、国内外で数多くの展覧会に参加。

武蔵野美術大学 美術館・図書館
〒187-8505 東京都小平市小川町1-736
tel. 042-342-6003
https://mauml.musabi.ac.jp/museum/
X, Instagram: @mau_m_l
※最新情報は当館webサイトにてご確認ください。

MAPおよびアクセス情報
1：西武国分寺線「鷹の台」駅下車、徒歩18分
2：JR中央線「国分寺」駅北口4番停留所より
西武バス「武蔵野美術大学」行または
「小平営業所」行に乗車、「武蔵野美術大学正門」
停留所下車（バス所要時間：約25分）
3：JR中央線「立川」駅北口5番停留所より立川バス
「武蔵野美術大学」行に乗車、「武蔵野美術大学」
停留所下車（バス所要時間：約25分）
※お車でのご来館はお控えください。

アクセス　美術館サイト



《Untitled》1993年／練馬区立美術館蔵
※作品撮影：飯村昭彦（《Untitled》1993年を除く）



［壁面］（3点共通）《Untitled》1992年／［床置き］《Untitled No.4》1995年
（茨城県天心記念五浦美術館（2023年）での展示風景）

